

マーケットの動き（2023年5月8日～5月12日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。10日発表の4月の米国CPI（消費者物価指数）がほぼ市場予想通りとなり、インフレ圧力に対する警戒感が和らぐと債券は買われました。12日に米国ミシガン大学が発表した期待インフレ率が引き続き高水準であったことから、債券は売りが優勢となり金利低下幅を戻して週を終えました。

欧州国債市場は、前週末比でドイツ金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2023年5月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに小幅に上昇

米国：長期金利は、足元の堅調な雇用情勢に加え、インフレの高止まりや年内利下げ観測の後退から、上昇するとみています。ただし、これまでの利上げによる景気後退懸念が低下圧力になるとみられることから、長期金利は小幅の上昇にとどまるとみています。

欧州：ドイツ長期金利は、金融システム不安が後退する中、コアインフレ率の高止まりと賃金上昇圧力に対する警戒感から、ECB（欧州中央銀行）高官は金融引き締めを強調していることもあり、上昇圧力がわかりやすい展開を予想しています。

	5月12日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.46	0.02	0.04	▲0.38	0.64
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	519.77	▲0.28%	1.16%	0.06%	2.25%

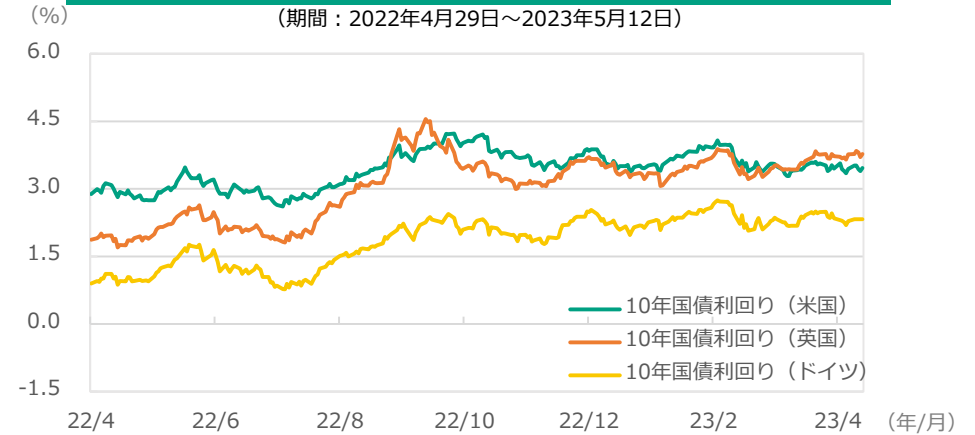
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202305_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2022年4月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成